

# 岩手郡医報

平成 6 年 1 月 No43  
編集 発行  
岩手郡医師会  
題字 平石町高橋孝先生



あさひがのぼる

平成 5 年 8 月 29 日 好天に恵まれたこの日、釜石市で行われた県医師会野球大会のとき、前夜宿泊した大槌町吉里吉里の浪板海岸そばの民宿にて、早朝早起きして撮ったものです。太平洋の海の向こうに朝日がのぼるさまはとても清々しい思いであった。

(M. S 記)

## <目次>

岩手郡医師会学術講演会…………… 2～3	随想 「美しい」と言う言葉
平成 5 年度岩手郡地区	高橋 孝…………… 8
学校保健会研修会…………… 4	岩手郡医師会役員会…………… 9
岩手郡医師会災害事故	行事予定…………… 9
救急医療対策要綱…………… 5	新入会員紹介…………… 10
おらほの先生	編集後記…………… 10
東八幡平病院 及川忠人先生…………… 6	
随想 寄付金と個人事業	
塚谷栄紀…………… 7	

## 岩手郡医師会学術講演会



日時：平成5年12月4日（土）  
午後3時より  
場所：八幡平リゾートホテル

- 1 開会の言葉  
郡医師会副会長 高橋孝先生
- 2 会長挨拶  
郡医師会会長 高橋牧之介先生
- 3 学術講演  
座長 郡医師会理事 西島康之先生
  - (1) 「地域医療」  
郡医師会会長 高橋牧之介先生
  - (2) 「閉塞性肺疾患の臨床」  
岩手医科大学第三内科  
教授 井上洋西先生
- 4 閉会の言葉  
郡医師会副会長 佐藤郁郎先生
- 5 懇親忘年会  
(於：3階 宴会場「岩手山」)

### 演題 『閉塞性肺疾患の臨床』

講師 岩手医科大学第三内科  
教授 井上洋西先生



#### ＜講師紹介＞

東京生れ、東京育ち  
昭和46年3月 東北大学医学部卒業  
 ◇ 52年6月 米国バージニア・メイソン研究所留学  
 ◇ 55年2月 東北大附属病院第一内科助手  
 ◇ 63年4月 同 講師  
 平成2年 東北大附属病院第一内科医局長  
 ◇ 4年 東北大医学部内科第一講座助教授  
 ◇ 5年8月 岩手医大第三内科主任教授

#### 〔講演要旨〕

本日のタイトルとして掲げた「閉塞性肺疾患の臨床」中でも特に力を入れている「気管支喘息の治療の動向」について本日は話をすすめたいと前お話し、喘息治療の主なポイントを中心にお話された。

近年、医療の進歩にもかかわらず喘息が増加していることが、米国をはじめとした先進欧米諸国間で問題になっています。その対策として、米国ではNIH（米国立衛生研究所）より1991年8月に、『喘息の診断と管理のた

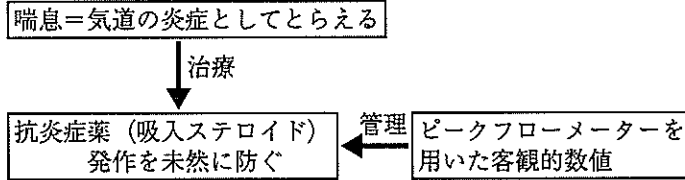
めのガイドライン』が刊行されました。その他、米国やオーストラリアなど各国でガイドライン作成の動きが起きています。

これらの動きを受け、1992年6月、世界の著名な気管支喘息の臨床医や研究者たちによって、『喘息の診断と治療に関する国際委員会報告』が発表されました。この委員会報告（ガイドライン）には、現在考えられる最良の喘息治療方針が示されています。

国際ガイドライン作成の動きに呼応して、日本でも日本アレルギー学会を中心にガイド

ライン作りが進行しています。これには、わが国独特なものが盛り込まれていると思われ  
ますが、とにかく今後、幾度かの検討会議を  
経てガイドラインが作成される過程を、医師  
や患者さんの日常の診断や治療に役立つよう  
レポートしていく予定です。

○新しい喘息治療法のポイント



1. 病因を予防する。(抗原の除去、感染予防)
2. 悪化を早期に予知し、回復をはかる。(ピークフローメーターの使用と悪化対処法の検討と患者教育)
3. 発作を未然に防ぎ、肺を出来るだけ正常に近い状態に長期間保つ
4. これらにより気道の慢性炎症性変化を消失させ、喘息を治癒させる。

※ ( ) 内は新しい治療のポイント

○治療薬

1. 抗炎症薬 (吸入ステロイド、クロモグリケート、ネドクロミルなど)
2. 気管支拡張薬 ( $\beta_2$ 刺激薬、キサンチン剤)
3. その他 (抗アレルギー剤)  
抗アレルギー剤としては
  - 1) ケトチフェン (ザジテン)
  - 2) その他の抗アレルギー (世界の目はなお懐疑的)  
使用のタイミングとしては中等度の喘息でも軽症な場合、アレルギー薬の使用をすすめる



郡医師会忘年会



カラオケで熱唱する西島先生(左)と瓜田先生(右)

## 平成5年度 岩手郡地区学校保健会研修会報告

郡医師会理事 上原充郎

上記研修会が10月23日（土）、P.M.2:00より盛岡地区合同庁舎において開催されましたので報告致します。

鈴木哲男副会長の開会の言葉で定刻に始まり、高橋孝会長より“生涯の教育の大切さ”故の研修会であるとの挨拶がありました。

今回は「高齢（化）社会に向けて」と題する盛岡市働く婦人の家所長、亀井良子先生の講演会であり、先生のお話しはユーモアに富んだ、実例を引用した、大変分かやすいもので、高齢（化）社会に向けて、現在の社会状態をうけとめ、特に最近の若者像を次の様に特徴づけています。

①9時、5時族②ベルサッサ族……始業直前に来社し、5時きっかりに退社。ベルの前に来社して仕事の用意をしたり、退社ベルの後で後片づけをするような若者はほとんど居ない。③カルチポテト族……父親は残業で帰宅が遅く、母親はカルチャー教室に出席のため、外出、自分だけ家に残り、夕食を一人で食べ、食後はポテトチップス等を食べながら、テレビやファミコンで時間をつぶす若者。④3間なき世代……ゆとりの時間、親しい仲間、のびのびと遊ぶ空間の無い時代。⑤あらま、おほほ族……あ…安定、ら…楽、ま…ゆとり、お…おもしろく、ほ…本物主義（ブランド主義）、ほ…本人主義（自己主義）。

この様な若者達が次の時代を担って、しかも高齢（化）時代をどう生きていけるかという不安と、我々40、50代の者が、高齢になった時、豊かに、ゆとりのある暮しを出来るようにするために今からの心構えをお話しになりました。高齢社会というのは一つの地区内の

$$\left( \frac{\text{65才以上の人数}}{\text{その地区の全人数}} \times 100 = 7\% \text{以上} \right)$$

をいい、日本は昭和45年に7%になり、23年後の現在はすでに13%になっている。更に、

出生数は年々低下し、現在は一家庭1.5人の出生数であり、加えて平均寿命が男子76才、女子82才と延長しているので、一層高齢者は増加し、総務庁の推計では平成12年には65才以上の人口比率は岩手は全国9位で20.58%、24年には4位の24.01%、32年には3位の28.04%になるという。

先生のお話しを結論的に書いてみる。我々は自分の力で老後を生きていけるように今から自分で“お金”を用意すること。サッチャー英国元首相でさえ、“人情とさいふは厚い方がいい”と言ったとのこと。昭和63年に郵政省は定年後に平均寿命まで夫婦で生活するには年金以外に4000万～5000万円が必要と発表している。出来るなら、50才までに子供を自立させ、それ以後から定年までの間に老後のためのお金を貯蓄すること。自分の子供の世話になろう等とは夢にも考えないこと。子供達は自分が生きていくのがやっとならうから。特に女性は男性より6年も寿命が長いことから、御主人の死ぬ前に遺言をしっかりともらい、自分の物はしっかり自分の物とし、自分の足元（立場）をしっかりと確立しておかなければ周囲から足をすくわれてしまう。自分が賢くなり、嫁いびりや、嫁にいびられたりしないように生活を工夫すること。“お金は第六感である”と言われる。五感が健康でなければお金をつかえない。健康に老いることとも言われた。老人問題の五悪は貧、病、孤、無為、耄碌（もうろく）であるから、これ等を克服すべく若い時から生活設計を立て、ゆとりある老人生活をするように等々、1時間30分が短く感じる程興味深く引き込まれるようなお話しでした。先生の間興味ある、経験豊かな、ユーモアのあるお話しは私の文章ではとても表現出来ません。機会がありましたら先生のお話しを是非お聞き下さい。

## 岩手郡医師会災害事故救急医療対策要綱

### 1. 目的

岩手郡医師会は、岩手郡及び、その周辺における広域的災害事故発生時に、迅速かつ組織的に、救急医療救護活動の万全を期すために、本要綱を定める。

本要綱は、災害対策基準法及び、災害救助法に基づき、県医師会をはじめ、近隣医師会の協力の下に、救護班の設置及び、救急医療救護活動を実施するために必要な基本的事項より構成される。

### 2. 救護班の組織と活動

①. 岩手郡医師会の救護班は、対策本部と救護所とを組織し、対策本部は、岩手郡医師会長、副会長、救急担当理事及び、医師会事務職員がこれにあたり、さらに各班毎に救護班を置くものとする。

②. 救護所は医師会員及び、その従業員によって構成され、救急医療救護活動を実際に行うものとする。

③. 救護班の管理部は、岩手郡医師会本部に置き、医師会長は管理部長を兼任し、救護班を統轄し、医師会副会長は対策本部長を補佐し、各班救護班長、班員を掌握し、会員、関係機関との連絡、情報の交換、衛生材料の確保、その他救護所の円滑な活動に必要な業務を行う。

### 3. 救護所の設置と業務

管理部長は各町村本部長の要請に基づき、予め指定した場所に救護所を設置し、救護所は搬送された傷病者の病状の判断と救急医療救護活動等を実施するものとする。

### 4. 救護所の開設指定場所

岩手郡医師会の救護所は、葛巻、岩手、西根、安代、松尾、玉山、滝沢、雫石、の各町村毎に設置するものとし、原則として各町村に一ヶ所以上は確保するものとする。

### 5. 岩手郡医師会員の集合指定区分

各班の会員は、予め定められた救護所に集合するものとし、各班毎の班員構成と集合指定区分はこれを別に定める。

### 6. 救護所の組織と医薬品の確保

①. 班員はそれぞれ看護婦、事務員等を適宜帯同し、所定の救護所に集結し、救護

所長の指示に従い、行動活動するものとする。

②. 医薬品及び衛生材料は、使用したものについては、各地方自治体において負担するものとする。

③. 救護班長は、救急医療救護活動の概要について、出来る限りすみやかに管理部長に書面にて報告しなければならない。

### 7. 連絡

災害事故発生時に、速やかに対処するため次の手段を用いて管理部より各班への指示、連絡を行うものとする。

①. 電話連絡網（ネットワーク）

②. 防災無線

③. アマチュア無線

④. その他

尚、電話連絡ネットワークについては別にこれを定める。

### 8. 身分の補償と損害補償

各町村長は、災害事故発生時の救急医療救護活動中に、会員もしくはその帯同した従業員が事故を受けたときは、災害対策基本法第84条により、補償することとする。但し医師会員については、原則として、岩手県特別職災害補償規定により支給し、その他の者については一般労働災害補償による補償を支給するものとし、各町村の承認を得てこれを決定する。

平成5年9月22日

岩手郡医師会長	高橋牧之介
同 副会長	佐藤 郁郎
	高橋 孝
	上田 靖彦
総務担当 理事	西島 康之
	及川 忠人

この要綱は「救急の日」行事として行われた救急医療懇談会(於八幡平ロイヤルホテル)において管内町村担当者と共に話し合われたものです。

## おらほの先生



及川 忠人 先生

院長は昭和21年3月28日生まれ。47才と、まだ若いのですが、205名の入院患者及び、職員140名あまりをかかえ、日夜(?)頑張っております。(みんなかかえ、両肩は、いつも重く肩コリですか?)

東八幡平病院に勤めて、約16年目、松尾村に通いつめズウズウ弁や方言にもなれ、患者とのコミュニケーションもとれてきたある日の事、診療中にDr「具合は、いかがですか?」Pt「このごろ、ベロがでて、こまあるんす。」と、手で口のあたりをおさえる。Dr「えっ、ベロ?ベロが出るって……なんで舌がそんなに出るの?」Pt「?」Pt「舌でねぐ、ベロでがんす」Dr「???……」意味が通じず、変な顔してチラッと、私を見る。Ns=すかさず、「ベロって、ヨダレの事?」Pt「ウン、そうだった」Dr「なんだ、ベロって、ヨダレの事か、俺はまた、なんでまた舌が、そんなに出るのか、〇〇さんの舌が、そんなに長いのかと、不思議に思ったよ」と、大笑いになりました。

時々ですが、Nsの通訳がないと、わから

## 松尾村 東八幡平病院の巻

(院長 及川忠人先生)

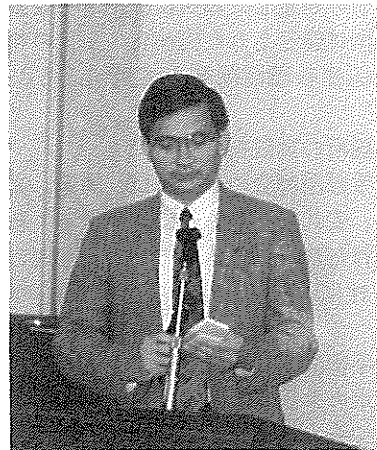
ない時があります。

なにせ、院長は大船渡出身で、気仙弁で、「～すつと」「～でがすと」という時があり、ひととき方言合戦になります。その時には笑いが止まりません。

趣味は、アマチュア無線、スポーツは、学生時代、バレーボール、ボート、乗馬と、いろいろとやってみたいのですが、忙しく、運動不足になり、お腹の具合を気にしております。「悪い見本がいるから、太らないように」と、よく患者さんに話しております。

院内のカラオケ大会では、患者さん達も、楽しみにしておりますが、我院長18番の「北国の春」は、拍手喝采?です。

何かと忙しい院長ですが、今後とも患者のため、職員のため、健康に気をつけて、頑張ってもらいたいと思います。



司会をつとめる及川先生

## 随想 寄付金と個人事業

岩手医大60周年記念事業の寄付について

岩手町 塚谷 栄 紀

10月2日、圭陵会岩手郡支部総会があった。席上、岩手医大60周年記念の寄付依頼の概要が、圭陵会谷口繁幹理事長、菅原教修副会長の両先生から述べられた。

私の、事業に対する質問を整理してみた。

1. 記念館は、岩手医大の存続を掛けた事業であるとされているが、経済的合理性はあるのか。医療収支が厳しくなっている時に、医療設備以外の建物を付加する必要があるのか。
2. 100億の予算のうち、半数を寄付金に頼る計画は、他に類を見るのか。
3. 岩手に是非必要な機関であるなら、なぜ公的助成は無いのか。
4. 岩手医大所有の土地等の売却など、資金補充への対応策はあったのか。

谷口先生より、次の説明を受けた。

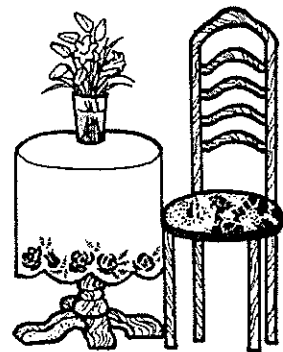
8、9、10階の設備は、将来2号館が整備されるため、一部の移転を目的とし手狭の講義室を拡張する必要がある。経済的合理性については、言及されなかった。寄付金の額については、私立の医科大学では、かなりの負担を寄付金に頼り、設備、教育の充実にあてている例が、全国に多くある。現在、公的機関からの助成はないが、センターが軌道に乗り、実績をあげ、岩手に是非必要であるとの認識が出てくれば、将来には助成も得られるのではないか。大学の財産処分などの資金充当の実際については言及はなかった。

懇親会で、循環器疾患の増加と、それへの対応の後れを伺い、また岩手医大の設備の遅れが顕著になり、そのことへの危機感がある

ことの説明を受けた。募金の額を抜きに説明を受けると、納得がいくところもあるが、釈然としない。事業の本体が大きくなってくると、責任の所在、問題点がぼやける。同じ性格の事業を個人でやってみる場合を想定するとはっきりしてくることがある。

個人で事業をする場合、その維持まで含め、経済的合理性なしにことを進めるだろうか。事業の内容いかんに係わらず、資金の半分を寄付に頼る計画を考えるだろうか。なんとしても不可欠な事業で、相手に借金を敷いても、寄付以外にその道はないとすれば、ひたすら懇願し、根拠を明確にし解き伏せ、そして何回も説得を繰り返すのではないだろうか。

法人でも、個人でもこれを起こす基本は変わらないと思いあえて投稿した。金銭が主の問題だけに、大学への自分の気持ちの見直しにいい機会と思う。大学の将来のためにも、論争がもっと必要と思う。



## 随想 「美しい」と言う言葉

雫石町 高橋 孝

過日、書の講演会で、日本人は言葉、特に話し言葉、書き言葉を苦勞して作り出し、しかも大変大切にしている人種で、世界に類をみないだろうと、そして、その折に「美しい」と言う言葉の例をあげて、「美しい」と言う言葉の意味は、奈良、平安時代は、親子、夫婦の愛であったり、又小さいものを、かわいい、と思う気持ちのようであった。それが、室町時代に入って今の美しいと言う本来の意味となったと言うお話を聞きました。

確かに奈良末期から平安初期頃の万葉集に当時は親子、夫婦、親しい男女が互いに愛しく思う気持ちを表わして、当時は眼前にない愛の対象に対して「うつくし」と言われるのが殆どで、「木毎に花は咲けども何とかもうつくし妹がまた咲きでこぬ」等があり、それがだんだん山上憶良の「父母を見れば尊し、妻子見ればめぐし、うつくし」等、眼前にいる対象にも使われて、平安時代になると、これが小さいものをかわいいと思う気持、例えば、「竹取物語」に「三寸ばかりなる人いとうつくしうていたり」又、枕草子には「何も何も小さきものはみなうつくし」とある様に変わり、鎌倉時代以降に現在の「美しい、綺麗」の意に移行した様です。

私は、国文学者でもなく、専門的なことは全く解らないが、三十一文字に情景、心情を表現することを得意とすることも日本人特有の言葉を大切にする言葉への愛着から生まれたものと考えます。

又、言葉の意味を狭く狭く使うのを得意として、例えば約束でも、一般的な「契約」と「契る」とは後者については主に、男女間の約束に使うとか、又別の方向からみて、言葉の使い分けをみると、「間抜け」なことを「おめでたい」、「かわいい」ことを「にくい」、又

不吉な連想を避けるために、逆言葉を使う「僧」を「髮長」、「仏」を堂の中に安置すると言う意味で「中子」と呼んだり、「梨」や「するめ」が「無し」、「する=金を使い果たす」と同音であることを嫌い、それぞれ「有りの実」「あたりめ」となり、又おめでたい席で「閉じる」「終る」は禁句ということで「お開きにする」等は良く聞く言葉です。

この様に日本人は言葉を大切に、意味を細分化して、言葉一つ、一つに明らかな意味を持たせるように努めて来た国民と言われております。

「それでどうしたの？」

「イヤ、イヤ、マズ聞ゲ」

先日、根本先生から、シベリヤに多くの従軍看護婦が抑留された話を聞きましたが、「不可侵」とか「東京声明」とかいっても、大陸がもし、日本人に比べて言葉の意味が広かったり、又曖昧だったりすると「不可侵」と言う言葉も日本の国が、チェーンストークス呼吸で、息が絶え絶えの時に国境を越えて戦車が入って来たり、大陸の王様と日本の王様が約束した、奪い取られた島を返す約束も果たさなかったり、核廃棄物を日本海に投棄しないと約束しても、3日目には棄てることは「日本語ムツカシイ、ムツカシイ」と言いながら、良く言えば国民性、悪く言えば日本の王様が大陸の王様に得意の意味の広い言葉で、煙に巻かれているのではないだろうか。

約束した言葉がもし、日本人の言葉の意味と遠くかけはなれていれば「口約束」も「声明」も全く意味のないものになるのではないだろうか。

その時、講師の先生は「島は返らない」と言っておりました。



# 岩手郡医師会役員会

日時：平成5年10月28日（木）pm6：00

場所：盛岡駅前 ホテル・メトロポリタン盛岡

出席者：高橋（牧）、上田、八角、及川、  
嶋、高橋（孝）、高橋（克）、篠村、  
西島、上原、根本、佐々木、  
佐藤

## 議 題

### 報告事項

- 1) 岩手県臨床内科医会について（8/21）  
於県医師会館
- 2) 第45回岩手県医師会親睦野球大会  
（8/29）於釜石市
- 3) 第27回岩手県医師会親睦ゴルフ大会  
（9/15）於盛岡ハイランドC. C
- 4) 第47回東北医師会連合会総会・並びに  
学術大会（9/18）於山形市
- 5) 救急医療懇談会（9/22）  
於八幡平ロイヤルホテル
- 6) 自賠責保険について（9/29）  
於メトロポリタン盛岡
- 7) その他 全国中学校スキー大会（安代  
町にて開催、H6年2月）の救急患者  
依頼について

### 協議事項

- 1) 第91回岩手医学会秋季総会・日本医師会  
岩手県医師会生涯教育  
講座・厚生省健康政策局救急医療講習会  
（11/28）
- 2) 第37回社会保険指導者講習伝達講習会  
（H6. 1/9）
- 3) 第11回岩手県学校保健・学校医大会  
（H6. 1/23）
- 4) かかりつけ医推進委員会の委員推薦につ  
いて
- 5) 感染性廃棄物の適性処理について
- 6) 郡医師会学術講演会・忘年会（12/4）  
於八幡平リゾートホテル、岩手医大第三  
内科井上洋西教授予定
- 7) 岩手郡医師会定款について
- 8) 臨時総会開催について
- 9) その他

## <行事予定>

◇第11回岩手県学校保健・学校医大会  
平成6年1月23日(日) 午前10時より  
於 岩手県医師会館4F

◇岩手県医師会親睦スキー大会  
平成6年2月13日(日)  
於 岩手高原スキー場イーストバレー

◇郡医師会役員会  
平成6年1月29日(土) 午後3時30分より  
於 盛岡グランドホテルアネックス

◇第25回県医師会親睦囲碁大会  
平成6年2月20日(日)  
於 北上プラザホテル

◇郡医師会総会  
平成6年2月12日(土) 午後3時30分より  
於 岩手県医師会館  
※役員の改選がありますのでぜひ会員  
多数参加して下さい。

## ＜新入会員紹介＞

○柎内秀士先生（柎内第二病院）  
 年 齢：満43才（昭和25年7月27日生）  
 診療科目：脳神経外科  
 出身地：盛岡市  
 出身校：岩手医科大学

（学歴）  
 昭和44年3月 岩手高校卒業  
 昭和52年3月 岩手医大卒業

（職歴）  
 昭和52年4月 岩手医大脳神経外科医  
 局入局

昭和59年6月 岩手医大高次救急セン  
 ター入局（助手）

昭和59年6月 岩手医大脳神経外科医  
 局入局（助手）

平成元年12月 柎内第二病院勤務  
 副院長兼リハビリテー  
 ション部長  
 （現在に至る）

趣 味：スキー・テニス・碁・将棋  
 コメント：今後は、頭部外傷・脳卒中後  
 遺症の患者さんに対し、「リ  
 ハビリテーション」という立  
 場より携わって行きたいと  
 思っています。  
 又、脳神経外科及び救急セン  
 ター在職の経験を生かし、可  
 能な限り急性期の患者さん  
 にも係わって行きたいと思  
 います。  
 今後とも宜しくお願い申し上  
 げます。

○遠藤哲夫先生（遠藤医院）  
 年 齢：44才  
 出身地：宮城県石巻市  
 出身校：岩手医大  
 診療科目：整形外科・外科・理学診療科  
 開業の時期：平成5年11月10日（滝沢村へ）  
 趣 味：テニス・オーディオ・登山  
 ＜ひとこと＞

町立西根病院に11年勤務し、盛岡市内  
 仙北町で3年6ヶ月開業しました。

出戻りですが、県北に戻ってきたとい  
 う事で何かホッとした感じがします。  
 ゼロからの出発ですが、頑張ります。

## 編 集 後 記

○新年あけましておめでとうございます。

年も改まって気分も新たに尚一層の御協  
 力をよろしくお願い申し上げます。

○本号は郡医師会学術講演会として昨年12月  
 初めに、新任の岩手医大第三内科教授井上  
 洋西先生をお迎えして行われたものなどを  
 掲載しました。

○井上教授の講演は、専門領域の気管支喘息  
 の最も新しい診断、治療方針を示され、先  
 生のこれからの本県のこの分野での若く、  
 活気あふれる先達として活躍を期待したい  
 と思います。

○表紙写真としては、新年にふさわしいもの  
 何かないものかとさがしてみました。これ  
 はどうだろうと前々から考えていました…  
 皆さんも何か適当なものがあったらお知ら  
 せ下さい。

○学校保健会研修会の講演は、「高令（化）  
 社会に向けて」と題して行われたが、非常  
 に示唆に富んだ内容であったように思われ  
 る。

○「おらほの先生」では松尾村の及川先生に  
 登場していただきましたが、地元の言葉と  
 いうものは独特の方言があり、しばしば通  
 訳が必要となることも多い。安代町の倉田  
 先生もこの方言については大変苦労されて  
 いるということをお聞きしました。

○塚谷先生からの提言は、圭陵会支部総会  
 での質問内容ではありましたが、今後なお関  
 係者の努力に期待したいと思います。

○高橋先生の文章にはいつも枕草子、万葉集  
 などの引用があつてとても楽しみです。

（M. S 記）